

国語の教科書には、社会科の内容とくに日本や世界に関する話題が数多く登場します。

国語の学習でそうした話題が出てきたときは、地図帳を併用すれば、国語の学習が深まるばかりでなく、地図帳の応用場面を得ることになり、地図の学習が活性化されることは間違いありません。

以下では、国語の学習の中で地図帳を活用する観点を3つ取り上げ、具体的事例を通して述べます。

1. 漢字に注目した都道府県の学習 (4 学年)

漢字の取り扱い、国語の学習の中で大きな位置を占め、子どもたちの手に地図帳がわたる4学年までに340の漢字が取り上げられます。いっぽう、地図帳に掲載されている日本の地名のほとんどは漢字で表されており、地図帳を用いた学習は、漢字の絶好の復習機会となり、発展学習の機会ともなります。

小学校新学習指導要領・社会では、中学年の内容のひとつに「47都道府県の名称と位置」を挙げています。しかし、都道府県名には愛媛県のように難しい漢字も見られ、はじめから47すべての漢字表記の習得を子どもたちに課するのは現実的ではありません。まずは『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下、地図帳）の1～3ページを活用し、比較的やさしい漢字の復習を兼ねた都道府県名の学習から入りたいと思います。

たとえば、「山」のつく都道府県名を探してみよう、といった課題であれば、クラスのどの子どもも学習に参加できます。また、「山」

が頭につく県、後ろにつく県があることにも子どもたちはすぐに気づきます。前者の山形県、山梨県、山口県、後者の富山県、和歌山県、岡山県は、子どもたちはすぐにも日本地図上から探し出すことでしょう。同様の課題として、「川」のつく県、「島」のつく県などがあり、いずれも比較的やさしい課題です。

地図帳3ページ上部に配置されたイラスト(図1)はこの課題を応用したものです。ひとつの例は「石」+「川」=石川県ですが、こ

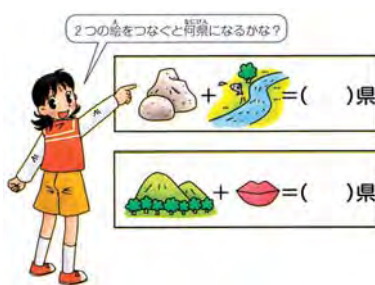


図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.3

こでは日本地図上から石川県を探することが大切です。また、イラストで例示したほかにも、

岩手県のように絵で示す問題を作れる県があるので、子どもたちに問題作りをさせてみるのも面白いでしょう。

こうした一連の学習の中から「山」のつく県には山が多いのだろうか？「島」のつく県には「島」があるのだろうか？といった疑問を出す子どもが現れれば、地図帳で調べてみようという動機になり、国語の学習から地図帳の活用へと発展していくのです。

2. 文字の来历に注目した外国の学習 (4～6 学年)

国語の学習で取り扱う文字のうち、漢字とローマ字は名称が来历を示しており、外国の学習と関連します。A社の国語教科書4学年

用（上）には、ヨーロッパで生まれたローマ字は、今ではヨーロッパや南北アメリカを中心に多くの国で使われています、と紹介され、同じく5学年用（上）では、漢字は、中国で、三千年以上も前に生まれましたと解説されています。

文字の来歴と関わって活用したいのが、地図帳74～76ページ「世界の国々」です。ここでは、主要な国々のことばを取り上げ、日本語の「こんにちは」にあたる外国語表記とカタカナ表記を示しています（図2）。これらを調べることによって、子どもは外国の挨拶のことばを知ると同時に、世界の中で漢字を使っている国やローマ字を使っている国を確認することができます。国語の学習内容が国際理解に発展することにもなるのです。



図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.74～75

3. 物語文、説明文の舞台を調べる学習（4～6学年）

A社の国語教科書5学年用（下）に掲載の物語文「わらぐつの中の神様」では、積雪の多い地域が舞台になっており、主人公の女の子が通う学校では体育の授業でスキーが行われている様子が物語の中で描かれています。

5学年の社会科ではわたしたちの国土—気候が取り上げられることに関連して、この物語文を学習する際には、地図帳58ページ⑤

「降水のようす」を参照し、日本列島における冬季の積雪量を表した主題図（図3）の活用が効果的です。「わらぐつの中の神様」の作者は新潟県出身であることが国語教科書で解説されていますが、日本列島でも



図3 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.58

っとも積雪量の多いのは新潟県あたりであることが主題図から読み取れます。なお、「わらぐつの中の神様」では、登場人物の会話の様子が方言で表されていますが、方言の学習も地図帳との連携によって効果を生むと期待されます。

同じくA社の国語教科書5学年用（下）には、説明文「ニュース番組からの現場から」が掲載されています。ここでは、富士山の噴火を想定した避難訓練の様子や、北海道の有珠山の噴火の際に、訓練の成果によってひとりの犠牲者も出さなかった経過がテレビのニュースで取り上げられたと説明されています。

この説明文には、日本列島に火山の多いことが背景にあるので、ここでは、地図帳57ページ②「地形のようす」や62ページ①「日本と世界のおもな山の高さ」を参照し、火山の分布や高い山には火山が多いことなどを確認する学習を入れるとよいでしょう。

* * *

国語の学習と地図帳の活用が連携することによって、それぞれが相互に補完されるばかりでなく、子どもの学習が多面的になり、活性化されることが期待されます。